

【注意 閲覧者の方へ】

この資料は、東京学芸大学大学院教育学研究科国語教育専攻日本語教育コースの「日本語教育研究法B」（担当：南浦 涼介）ので取り扱ったHinkel (ed) (2011). *Handbook of Research in Second Language Teaching and Learning* のChapter1の発表資料です。教育的価値、資料的価値としてウェブ掲載をしていますが、いわゆる「論文」ではありませんので、論文への引用等をご遠慮ください。また、分析対象の著作権は著作者、資料文書の著作権は発表者に記しますので、無断転載をご遠慮ください。質問については東京学芸大学南浦研究室 (<http://www.u-gakugei.ac.jp/~minalabo/>) までお願いします。

流れ

1. 著者紹介
 - 1.1 職歴について
 - 1.2 出版書籍
2. 本章の目的
3. Situating Vocational ESL (VESL の位置づけ)
 - 3.1 CBI とは
 - 3.2 ESP とは
 - 3.3 VESL について
 - 3.3.1 VESL 理論はいろんな教育形式 (forms) に用いられる
 - 3.3.2 VESL 理論はいろんな背景 (settings) に用いられる
4. Program Types (プログラムの種類)
 - 4.1 Pre-Vocational Programs (就職前オリエンテーションプログラム)
 - 4.2 Vocation-Specific Programs (専門職業プログラム)
 - 4.3 Generic Field Programs (一般領域プログラム)
5. Research Foci (研究着目点)
 - 5.1 Policy (政策)
 - 5.2 Professionalism (専門性)
 - 5.2.1 Teacher Qualifications (教師の資質)
 - 5.2.2 Forms of professional development (職業訓練の形式)
 - 5.2.3 Professional Development Opportunities (専門性を育成する機会)
 - 5.3 Program evaluation (プログラムの成果分析)
 - 5.3.1 評価方法
 - 5.3.2 分析
6. Future Directions for Research (今後の課題)
 - 6.1 Theoretical Approaches (理論的アプローチ)
 - 6.2 Research Methodologies and Measurements (研究方法)
7. メモ

1. 著者紹介

1.1 職歴について

- ・1996-1997 には TESOL (Teaching English to Speakers of Other Languages) の会長として勤めていた。
- ・TESOL の理事長として 7 年勤めていた。
- ・Anaheim University の教授である。同時に、オーストラリアにある Macquarie University とカリフォルニアにある San Jose State University の名誉退職教授である。

・2000-2006年にはAMPE (Adult Migrant English Program) 研究センターとNCELTR(National Centre for English Language Teaching and Research)の行政官として勤めていた。

1.2 出版書籍

・英語教師が知るべきことⅠ：学習を知る (2011) *What English language teachers need to know I: Understanding learning*

・英語教師が知るべきことⅡ：学習を知る (2011) *What English language teachers need to know II: Understanding learning*

・英語教育における統率力：変化している時代の中の基礎理論と実践 (2009) *Leadership in English Language Education: Theoretical Foundations and Practical Skills for Changing Times*

・計画改革；変化して計画：第二言語教育の革新 (2008) *Planning Change; Changing Plans: Innovations in Second Language Teaching*

2. 本章の概要

本章は、オーストラリア・カナダ・アメリカ・ニュージーランド・イギリスにおける、VESLの研究範囲について議論する。

(1) VESLというのは成人向けのESLにおける移民と難民のために開発されたプログラムである。留学生のための英語学習プログラムと非英語国家における職業訓練プログラムと異なる。

(2) 英語国にいる英語を母語としていない移民と難民は職業・学業と日常生活に英語をうまく運用できるニーズがある。すなわち、英語を使って、生きる力 (life skills) を得られることを望んでいる。

(3) 成人ESLの中に、最も大切に扱われているのは職業領域のESL (VESL) である。

3. VESLの位置づけ (Situating Vocational ESL)

3.1 CBIとは

VESLはCBI (content-based instruction) の一種である。

CBIは成人教育のためのカリキュラムデザインの理論根拠。

CBIとは学問の学習と言語教育との統合である。具体的にいうと、CBIは一定の形式の言語アウトプットを通し、言語と科目知識を同時に習得することを指す。

三つのモデルがある：

(1) Theme-based courses→学習者の利益に基づいて設計されたコース。

(2) Sheltered content instruction→第二言語で授業する。

(3) Adjunct language instruction→必要な専門知識と言語指導との協同。

3.2 ESPとは

VESLはESPではない。ESPはCBIに属する。

ESPはEFL (English as a Foreign Language) のなかによく扱われている。

ESPにおける研究は言語学・談話研究 (discourse studies) ・語用論・会話分析 (discourse communities) に焦点を当てる。

3.3 VESLについて

3.3.1 VESL理論はいろんな教育形式 (forms) に用いられる。

	Murray(2011)	Wong(1992)	
(1)	Pre-vocational	General VESL	一般 VESL
(2)	Vocation-specific	Occupation-specific VESL	専門教育
(3)	Generic field	Occupation-cluster VESL	?

3.3.2 VESL 理論はいろいろな背景 (settings) に用いられる。

(1)	Adult ESL schools	成人 ESL 学校
(2)	Community colleges	社会大学
(3)	Technical colleges	専門学校
(4)	Community center	コミュニティセンター
(5)	Workplace	職場

4. プログラムの種類 (Program Types)

4.1 就職前オリエンテーション (Pre-Vocational Programs)

就職前の資質育成 (job-readiness) とも呼ばれている。ESP とほかの独立なコースにも見られる。以下具体例を挙げる

(1) カナダにおけるリテラシーとオフィス知識 (読み書き能力・計算能力・口頭交流能力・協同能力独学能力など) の教育

職場における資質とは、チームワークと問題解決ができる力を持つことである。

(2) アメリカでは 1990s まで、就職前のトレーニングを連邦法の一部として扱われていた。

1990 s 以降、連邦政府がプログラムをより合理化させるため、SCANS Commission (Secretary [of Labor] `s Commission on Achieving Necessary Skills) を成立した。その後、ある重要な計画 (US Department of Labor, 1991) を提案した。

US Department of Labor にはすべての職員に職場のパフォーマンスにおける最も重要な五つの職場能力と三つの基本技能を要求していた。

五つの職場能力 :

- ① Resource management 資源管理
- ② Information management インフォメーション管理
- ③ Social interaction 人間関係
- ④ Systems behaviour and performance skills
- ⑤ Technology utilization 科学技術の活用

三つの基本技能

- ① Basic skills 基礎技能
- ② Higher order intellectual skills 思考力
- ③ Motivational or character traits 働く動機/個性化

(3) 英語知識が少ない移民に初期段階における言語教育を提供するために、2003 年にカナダは ELT (Enhanced Language Training) プランを実施始めた。

4.2 専門職業プログラム (Vocation-Specific Programs)

VESL プログラムは英語初級レベルの移民に高等教育 (further education) を受ける機会を与える。

また、専門領域での研究 (future study) を行う機会を与える。

ESL と VESL の専門家がよくカリキュラムデザインに協同に作業する。ESL モードでは技能を育成のほうに焦点を絞る

4.3 一般領域プログラム (Generic Field Programs)

このタイプのコースはいろんな職業の教育に用いられるが、共通しているのは福祉と医療健康のこと。したがって、このコースにはよく技能の教授と言語の授業と切り離す。P.78

5. 研究着目点 (Research Foci)

オーストラリア : NCVER (National Centre for Vocational Education Research)

→第二言語 (英語) 学習者のためのプログラム開発と教室運営の研究をしている。

AMEP (Adult Migrant English Program)

→移民と難民の教育について 20 年研究し続けている。

アメリカ : 成人 ESL 研究計画に、就職前の ESL、職場 ESL と VESL は独立して研究している。

カナダ : 成人 ESL と VESL は相互の政策やプログラムレベル上の融合が始まったため、VESL を定義するのが難しくなった。

VESL の定義はまた統一していないが、以下三つのポイントから VESL についての研究が考えられる。

5.1 政策 (Policy)

(1) 移民教育と研修における政策研究は移民が地元の社会への全面参加を確保できるかどうかのことに注目する。例 : 「市民権の拡大化」と「英語を上達させる計画」

(2) 政策研究から分かること : 英語レベルが高いほど、職場への参加率も高くなり、職業技能のレベルも高くなる。(Boyd, Devries, & Simkin, 1994 など) p. 79

(3) 政府は質が高い労働者を望んでいたなら、移民に技能と言語の教育を提供すべきである。そして、VESL 教育を受けた移民はその成果を社会に還元し、より高い権利がもらえる。

(4) オーストラリア (Murray & Lloyd, 2007)

英語でうまく伝えられないため、ビザがもらえない可能性が増え、専門性が疑われ、入国したばかりの際に受けた AMEP の成績も悪かった。

学習者は AMEP、またはほかの英語コースを区別することができなかった。それから、集めたデータは学習者の自己評価 (self-report data) なので、どちらのコースが一番効果があるのかは判断できなかった。

(5) ニュージーランド

政策は移民の言語、技能、資質などに与える影響が大きい。

VESL における政策は国の教育を受けた労働者と労働力の現状を中心にしてデザインしたものである。政策によって、国の教育と国際競争と繋がっていることが考えられる。

5.2 専門性 (Professionalism)

Crandall (1993) は professionalism と professionalization が異なることを指摘している。

Professionalism とは専門性の育成のことである。一方、professionalization は第二言語としての英語教育。P.81

Professionalism の枠には以下三つの点が考えられる。

5.2.1 教師の資質 (Teacher Qualifications)

多くの研究者は VESL、または成人 ESL の教員は大人を対象とする授業のやり方が分からなく、教授についてのトレーニングが必要と考えている。

カナダの研究者 (Folinsbee,2007b; Millar,1997) によると、ESL 教師は言語の教え方に経験が足りない、それに対して、英語教師は第二言語教授または異文化意識についてあまり触れたことがないという現状がある。

5.2.2 職業訓練の形式 (Forms of professional development)

Wallace(1994)はプロへの発展に応用できる三つの専門教育のモデルを提案した。

(1) Craft model 技術モデル

このモデルに、専門的知識/技術はベテランの教師が教える。

(2) Applied science model/ Transmission model 応用科学モデル/伝達モデル

経験的な研究成果を教師に教えることによって、教育現場に活用する。

(3) Reflective model 反省モデル

知識と経験から分かったことを実践に活用して、フィードバックして、活動のやり方を調整して、またフィードバックする。循環していくという形で授業を行う。

5.2.3 専門性を育成する機会 (Professional Development Opportunities)

Crandall (1993) では、実践を除いて、ただ教室内の授業しかないのは専門性の育成に足りないと指摘した。

5.3 プログラムの成果分析 (Program evaluation)

5.3.1 評価方法

今まで多くの研究は自己評価の形で調査を行っていた。例えば、インタビュー、学習者、教師、プログラムの責任者 (経営者) への調査アンケートなどの研究方法がある。

VESL は VET (Vocational Education and Training) の一つの形式でも言えるので、他の評価法も考えられる。例えば、学習者の人数の維持、学習者が出した作品、潜在的な客 (学習者) の数、外部からの評価、客 (学習者) の満足度などの評価方法がある。

Persistence も評価方法の一つである。Persistence は学習者が VESL 過程を選択する理由と直接な関係があると Sticht (2005) が述べている。p.83

学習者が卒業できるかどうかも VESL が成功したかどうかの見方の一つである。

5.3.2 分析

教育が成功したかどうかは、学習者が前に一步進んだかどうかからも見られる。例えば、もっと上のレベルのクラスに入ったことや、就職できたことなどからみると、VESL は効果があると判断できる。実際に、VESL を選択した学習者の多くは将来この英語の国に就職できることを目的としている。

言語と専門知識を組み合わせる形式の授業は学習者の中に一番評判がいいと Murray (2007) が述べている。授業を受けたあと、同時に言語の資格証と VET 証明書 (オーストラリアに就職する際に必要な資格の一つ) がもらえるのがその理由である。

内容基盤 (Content-based) の指導はより質が高いリテラシーと技能を獲得できる。(McDonald,1997,p.5)

6. 今後の課題 (Future Directions for Research)

今後の研究には、異なるアプローチ、または多様な研究方法を考えなければならない。

6.1 理論的アプローチ (Theoretical Approaches)

(1) 教育現場の真正性のこと。

VESL の学習者と労働者をどう扱うべき (区別する) かにについて考える必要がある。このことについての考え方は政府の政策にも関係がある。

(2) VESL と ESL を分けて考えるべきこと。

二つのグループのそれぞれのニーズ、目標、着目点についてははっきり見られなかった。

(3) 教員の専門性と今後の発展のこと。

このことに関する研究は少ないが、「教員の専門性」ということがよく宣伝 (強調) されていた。

6.2 研究方法 (Research Methodologies and Measurements)

学習者が ESL 課程、職業トレーニング、就職準備などの過程ではどのように進んでいたのかを知ることが重要である。そのため、縦断調査が必要である。

オーストラリア、カナダ、ニュージーランドとアメリカには縦断調査を行ったことはあるが、自己評価のデータを基に分析をしていた。学習者が卒業後、実際の職場にどのように活動しているのかについてはふられていなかった。VESL の成果を見るためには、対照研究も必要と考えられる。

7. メモ

◇ 概念

ESOL (English to Speakers of Other Languages) 非英語母語話者のための英語 (教育)

ESL (English as a Second Language) 第二言語としての英語 (教育)

VESL (Vocational English as a Second Language) 第二言語としての職場英語 (教育)

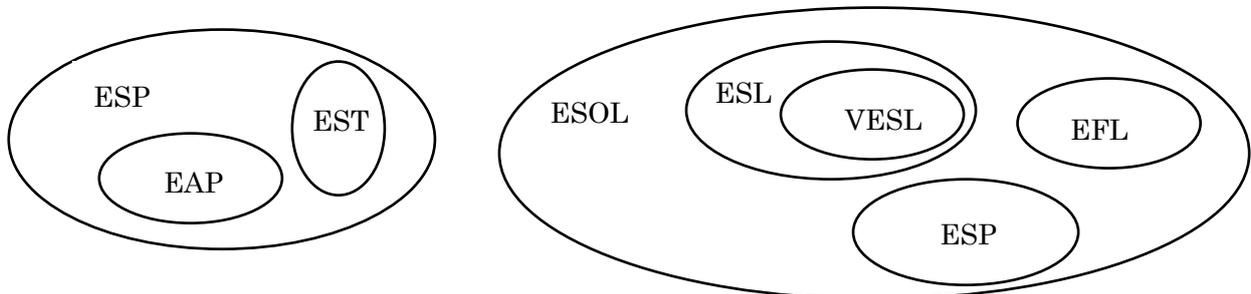
ESP (English for Specific Purposes) 特定目的のための英語

EST (English for Science and Technology) 科学技術のための英語

EAP (English for Academic Purposes) 学問目的の英語

EFL (English as a Foreign Language) 外国語としての英語 (教育)

CBI (Content-based Instruction) 内容中心教授



◇ プログラム

ELT (Enhance Language Training) →カナダにおけるプログラム

AMEP (Adult Migrant English Program) →オーストラリアにおけるプログラム

VET (Vocational Education and Training) →オーストラリアにおけるプログラム

◇ 組織／機構

SCANS Commission (Secretary [of Labor] 's commission)

WIA (Workplace Investment Act)

NCVER (National Centre for Vocational Education Research)

TAFE (Technical And Future Education)

TESOL (Teaching English to Speakers of Other Languages)

NRS (National Reporting System)

ANTA (Australia National Training Authority)

NRDC (National Research and Development Centre)

◇ 証明書

GED (General Education Development) certification→アメリカに、移民就職する際に必要な証明書